

小児歯科開業医における定期健診中断患者の実態調査

○國武哲治、柏木伸一郎、矢田育男、井槌浩雄、
松本敏秀、西本美恵子、久芳陽一、砥上照美
九州小児歯科集談会

小児歯科診療の特徴の一つとして定期健診があげられる。健全な永久歯列の育成を目指す為にはかかせないと思われるが途中で中断する患者も少なくない、医院側でこの問題について考えることは多いが、患者側の意見を知る機会は少ない。

今回福岡市とその周辺で小児歯科専門で開業している10医院に協力を得て中断患者についてアンケート調査を行ったので報告する。

対象は一連の治療や予防が終了し定期健診となった患者又は定期健診中の患者のうち、1年以上来院のないもので、各医院より100名リストアップしアンケートを送付して保護者に記入してもらった。

回収率は有効発送数740件中348件で47%であった。対象児の平均初診年齢は2.9才、平均中断年齢は7.2才、平均来院期間は4.3年であった。

中断の主な理由は、忙しい(39%)、費用がかかる(31%)、うっかり忘れていた(29%)、遠い(19%)、年齢が上がった(16%)、子どもが嫌がる(13%)などであった。

中断後転院せずにどこにも受診していないものは51%、転院したものは20%、転院した可能性のあるものは26%であった。

定期健診の必要性はあると答えたものは86%であった。小児歯科に対する意見を自由に記入する項目には69%のものが回答した。そのうち、批判的なものは90%であり、費用によるものは34%、診療によるものは30%、予約等診療以外のものは12%、説明等対応によるものは9%であった。

フッ素徐放性コンポジットレジン[®]の臨床的観察(第2報)

○西田郁子、森本彰子、内上掘征人、木村光孝
九州歯科大学小児歯科学講座

目的：フッ素徐放性コンポジットレジン[®]は、硬化後もコンポジットレジンより経時的に放出されるフッ素により、窩洞周辺歯質の耐酸性を高め二次齲蝕発症を抑制すると考えられている。今回、光重合型フッ素徐放性コンポジットレジン[®]を用いて幼若永久歯の修復を行い、その後の経過を臨床的に観察した。

対象および方法：対象歯は九州歯科大学付属病院小児歯科外来を受診した小児患児のうち、C₂を有する幼若大臼歯に限定した。修復部位は咬合面で、観察数は15例である。

修復に際しては、光重合型フッ素徐放性コンポジットレジン「UniFil[®] R F」、光重合型ボンディング材「UniFil[®] R Bond」(GC社製)を供した。リコール時に各修復歯に対して、辺縁適合性、辺縁部の着色、耐磨耗性、修復物の色調、歯髄反応、二次齲蝕について検討し、総合的に予後観察を行い評価した。リコール期間は、修復後1か月、3か月、6か月、1年とした。

また、修復物の表面性状および辺縁部の経時的な変化を観察するために、リコール時にレプリカ模型を作製し、通法に従い金蒸着を施した後、走査型電子顕微鏡にて観察を行った。

結果：辺縁適合性に関しては、1年経過後に触診によるギャップを認める症例が2例みられたが、辺縁部に着色がみられた症例はなかった。耐磨耗性に関しては、修復直後の形態と比較し肉眼的に一部変化を認める症例が1例みられた。修復物の変色・着色、歯髄反応、二次齲蝕に関しては、1年経過後も不快症状を示す症例はなく、良好な経過を示した。

走査型電子顕微鏡による観察において、修復物表面が粗造になっていたり、経過に伴い辺縁部に段差やわずかに破折している像が観察された。

以上の結果により、光重合型コンポジットレジン「UniFil[®] R F」は、幼若永久歯の修復に有効であることが示唆された。